

# いきいき輝こう!!

～清く明るく素直な日本の神様の心を感じよう～

神話のふるさと  
出雲で楽しく学ぼう。



**日時** 7月17日(日) 13:00～  
18日(月・祝) 14:30

**会場** 出雲国際交流会館  
(島根県出雲市平成町2320-1 TEL0853-21-5588)  
〔サブ会場〕 出雲大社

**対象** 小学生 ※親子での参加をおすすめします／兄弟割引未就学児割引あり

**定員** 70名〔大人含む〕

**参加費** 9,000円〔宿泊、食事、資料代、研修費など〕

**締め切り** 7月7日(木)

※7月12日以降のキャンセルについてはキャンセル料をご負担いただきます。

**申込方法** 下記申込書を郵送またはFAXしてください。

参加費は下記へ振込してください。

**振込先** 郵便振替 00100-7-333669／まほろば教育事業団

※お申し込みの方には詳しい資料をお送りします。

**後援** 島根県教育委員会／出雲市教育委員会

※運営は、現役教師、社会人スタッフ、大学生で務めさせて  
頂きます。また、保険加入など参加者の健康と安全の  
確保にあたります。



お問い合わせ・お申込み

認定NPO法人 **まほろば教育事業団**

〒150-0047 東京都渋谷区神山町24-11-202 <http://www.mahoroba-ed.org>

《東広島事務局》〒739-2115 東広島市高屋高美が丘9-26-17  
TEL 080-1630-8914(石田) FAX 082-831-6206  
e-mail: aishida@hiroshima-u.ac.jp

(キリトリ)

参加申込書 (申込み・資料請求)

FAX送付先 082-831-6206 メール aishida@hiroshima-u.ac.jp

|               |        |                |      |     |   |   |    |       |   |
|---------------|--------|----------------|------|-----|---|---|----|-------|---|
| フリガナ<br>氏名    | 性別     | 男・女            | 生年月日 | 平成  | 年 | 月 | 日生 | 血液型   | 型 |
| 学校名           | 学年     |                | 年    | 電話  |   |   |    |       |   |
| 住所            | 〒      |                |      | FAX |   |   |    |       |   |
| フリガナ<br>保護者氏名 | 参加・不参加 | (どちらかに○をして下さい) |      |     |   |   |    | 緊急連絡先 |   |

主な内容

- 日本の神様のお話や出雲大社正式参拝
- 神話の里で夜神楽体験(ヤマタノオコチ)
- スイカ割り、勾玉づくりに挑戦
- 素読・立腰実践
- 神話読み聞かせ・博物館見学など

過去の参加者の感想

《子供の感想》

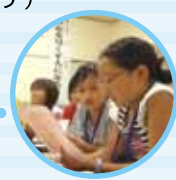
- ・「命」は、昔のご先祖さまたちからもらっています。なので、「命」を大切に、これから先、ご先祖さまの気持ちを考えて、上手に生きていこうと思います。
- ・すいかわり初めてやってびびりて班といっしょにたのしくたべた
- ・あの、ウミホタルの光は、いままで、みたこともないよううつくしきでした。

《親の感想》

- ・山登りとスイカ割り、美しい日本語である御製や唱歌の拝唱、日頃お会いすることの出来ない仲間との出会いなど、すべてが親子共々貴重な体験であり、それらはまた個人で、或は家族だけで出来ることではないと思います。

保護者の皆様へ

日本の神話を中心に、美しい伝統文化にふれ、日本の大切な心を深めて参ります。合宿の中では、子どもたちが発見・感動・挑戦体験を通して、生き生きと輝く自分(自己の可能性の発見、自己信頼感)を実感するための体験型プログラムを実施します。特に美しい日本の心を、次代を担う子どもたちに伝えていくための学習を展開いたします。



# 今年もまほろば合宿は素読に力を入れています。

「世界の中で尊敬される日本を築くために」

認定NPO法人まほろば教育事業団 理事長

学習院女子大学副学長 畠山 圭一

平成二十五年は、日本人の心のふるさとである伊勢神宮の式年遷宮の年でした。参拝者は過去最高の一四〇〇万人を越え、日本人が自らのルーツを求めはじめていることを物語っていました。そのような中、東京オリンピックの招致が決定しました。それは決して偶然ではないでしょう。日本人の心が一つとなって引き寄せたものと思います。

日本の多くの若者が夢を抱いて世界の様々な舞台に立ちうとしています。また世界中の人々が、日本の伝統文化の奥深さや科学技術の水準の高さに関心を寄せています。いずれも日本人の心が生き生きと躍動する姿の反映に他なりません。

若者の夢を育て、世界の中で尊敬される日本を築くために、青少年に日本のルーツとなる歴史、伝統、文化を伝える教育の再興が求められていると存じます。

まほろば教育事業団は、平成十七年、中西輝政会長（京都大学名誉教授）のもと、幼児、小学生、中高校生を対象に、美しい日本の心を甦らせる教育の再興をめざして設立されました。名称に冠した「まほろば（真秀る場）」とは、日本の統一という困難な事業に生涯を捧げた古代の英雄ヤマトタケルノミコトが、その最期に望郷の思いをこめて、ふるさと・大和の美しさを称えた言葉です。私たちは、多くのご先祖様が、様々な困難を乗り越え、美しいふるさとを伝えて下さったことに感謝し、その美しい日本を受け継ぎ、世界に尊敬される日本人を育てることを志して教育事業を展開してきました。

その中で最も重視しているものの一つが「青少年の心を磨き、鍛えること」です。何事にも「心を込める」ところに日本文化の本質があると考えるからです。心を鍛えるとは、心がいつも生き生きと作動し、相対する人の心の動きに敏感に反応し、共感できる素地を身につけることです。それは社会の一員としての役割を体得し、さらには、国や社会のリーダーとしての資質を養うことに他なりません。

合宿では、殻を破る挑戦などの様々な共同体験、公に尽くした偉人達に学ぶ歴史研修、和歌創作・素読・礼儀作法などの修養を通じて、青少年の心を鍛え、一

人一人のいのちの輝きを引き出しています。

私たちは、すべての青少年がダイヤモンドの原石のような存在で、その奥に素晴らしい才能、個性が輝いていることを信じており、運営にあたっては青少年とともに切磋琢磨し、自らも国や社会に役立てるよう研鑽に励んでいます。

## 合宿参加のおさそい

実行委員長

広島大学大学院教授 石田 敦彦

毎年夏に歴史的由緒のある場所を選んで開催される「まほろば小学生合宿」ですが、昨年・昨年の江田島に引き続き、今年は神話のふるさと出雲の地で開催することになりました。出雲大社にほど近い出雲国際交流会館を宿舎に、日本の神話のお話を学び、翌日は名高い出雲大社にお参りして、神話の世界を肌で感じてもらうおと思っています。では今、何故「神話」なのでしょう？

その問いを考える前に、今の日本社会に目を転じてみて下さい。昨今の政治家スキャンダルや大企業の不祥事を例に引くまでもなく、日本の社会の様々な分野でモラルの崩壊が起こり始めていることは誰もが感じることでしょう。そのためか、大学においても最近「規範教育」ということが頻りに推奨されるようになりました。しかし、真のモラルは単に規範を守らせるということでは達成できるものでないことは明らかです。嘗ての日本人は「お天道様が見ている」「ならぬことはならぬものです」という徳目をこく当たり前に教育現場で身につけてきた。この場合の「お天道様」は「神仏」或いは「ご先祖様」と言い換えてもよいでしょう。すなわち広い意味での宗教的情操こそがモラルの源泉になっていたのです。それを非科学的・封建的という理由で徹底して教育現場から排除してきたのが戦後教育でした。してみると、現在の日本社会の憂うべき状況はむしろ当然の帰結であると考えられないでしょうか。「お天道様が見ている」という「清き明き心」を身につけさせるには大学生では遅すぎます。嘗て我々の祖先がそうしてきたように、子供の頃からそのような感覚を養うことが、今、何よりも

教育に求められているのではないのでしょうか。神話の世界に触れることはそのための第一歩であると我々は考えられています。

本合宿は、社会の各層にあつて現在の日本の教育に危機感を覚える者が全くのボランティアで集まり、本来あるべき教育の姿を实践するために手弁当で企画しているものです。長年降り積もった戦後教育の塵埃を払うのは容易なことではありませんが、自分にも何かできることはないかとの思いで合宿を運営しています。神話のふるさと出雲の地で、将来の日本を担う真の日本人を育てるような合宿にしていきたいと思えます。ご賛同ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

## 会場図

